藝能史研究會の設立経過

藝能史研究は本年二月十日に京都会館第二会議室で行なわれた発起人会および設立総会を以て正式に発足し、ここに会誌「藝能史研究」の創刊をみる運びとなりました。この機会に、本会の発足準備より、今日に至る設立の経過を日誌的なメモとして報告しておきたいと思います。

▽**第一回準備会**　昭和三七年一二月二二日上京区の神戸屋に約一五名の同意者が集まって準備にかかり、研究会の目的や性格・発会をめぐる問題点などについて話し合ったが、その内容は趣意書におおむね反映されている。引きつづいて会則案や会誌発行の具体的方針についての討論がおこなわれたが、これについては第二回の準備会において詳細な検討を行なうということになった。

▽**第二回準備会**　昭和三八年一月一四日、前回に続いて会則についての審議が行なわれ、この会議で発起人会に提案された趣意書・会則案の成文をみた。また、研究会の発足にあたって御協力をいただく発起人を依頼する準備も進められ、会誌の編集についても、具体的な意見の交換を行なった（参会者一〇名）。

▽**第三回準備会**　二月六日

この時は、もっぱら発起人会・創立総会の準備が行なわれたが、準備会として提案した発会の趣旨・会則案・研究活動・会誌編集の方針などについて、最終的な確認が行なわれた。尚、この頃までに、印刷所との交渉が進み、財政計画とにらみ合わせて、会誌は季刊として、B5版六四頁の編集を行なうこと、会費は年間千円とすることを準備会の提案とすることなどが決定した。

◎**発起人会・創立総会**　二月十日

発起人会では、発起人を受諾された一一五人（二月九日当時の人数）の方々の紹介が行なわれ、準備会を代表しての林屋辰三郎氏の挨拶につづいて経過報告が行なわれた。

その後、直ちに創立総会に切り変えられて柴田実、上田正昭両氏を議長に選んで、次の議題が審議された。

一、会則審議

準備会の赤井達郎氏の提案にそって審議が進められ、左のように決定をみた。

藝能史研究會々則

一、本会は「藝能史研究會」と称する。

一、本会は、広く芸能ならびにその歴史に関する諸問題の学問的研究を行なうことを目的とする。

一、本会は、右の目的達成のために会誌「藝能史研究」を刊行し、適宜、研究会ならびに調査、見学その他研究に必要な行事を実施する。なお必要に応じて部会をおくことができる。

一、本会は、目的を同じくする他のあらゆる諸団体と協力する。

一、本会は、右の趣旨に賛同したものを以て会員とする。会員は、会誌の頒布をうけ、これに研究を発表し、研究会ならびに調査その他の行事に参加することができる。

一、本会の会務は、総会（年一回）において会員中より選出した委員（一五名）の合議をもってこれを行なう。代表者（一名）は委員の互選によって選出する。但し、委員の任期は一年とし、重任を妨げない。

一、本会には、総会の承認をへて評議員をおく。評議員は、委員会の必要に応じ諸問にこたえる。但し評議員の任期は二年とし、重任を妨げない。

一、本会には、会計監査のため監事（二名）をおく。監事は、総会において評議員のなかから選出し、その任期は二年とする。

一、本会に入会を希望する者は、住所・姓名・職業を記載し、会費をそえて本会事務局に申込まなければならない。

附　則

一、会則の変更は、総会においてこれを行なう。

一、本会事務局は、当分の間、立命館大学文学部、日本史研究室内におく。

一、会費は年間千円とする。

二、研究活動に関する件

北川忠彦氏の提案にもとづいて、会誌の編集や研究活動について討論されたが、編集内容は創刊号に、反映されているので、詳細は省略した。その他の研究活動に関しては、具体的意見が出ず、委員会に委任された。

三　委員選出

準備会の衣笠安喜氏によって、委員および事務局員の提案が行なわれ承認されたが、氏名は別に掲載する。また、事務局員は、後日委員会によって追加が行なわれることが認められた。尚、当日委員に選ばれた片山慶次郎氏の辞退によって、委員は一名欠員となっている。

五　評議員に関する件

会則審議の過程での提案によって、本会の発起人全員を評議員とする事に決定した。四月末現在左の一二四人の力が承諾されている。なお、会計監査をおこなう監事には、席上において五来重・高取正男の両氏が選ばれた。

赤井　達郎　　池田　弥三郎
池田　源太　　井口　海仙
猪野　謙二　　岩橋　小弥太
上田　正昭　　梅棹　忠夫
梅原　　猛　　瓜生　忠夫
江馬　　務　　大井　ミノブ
岡見　正雄　　景山　春樹
柏瀬　清一郎　　片山　博通
加藤　秀俊　　川勝　政太郎
河竹　登志夫　　北川　忠彦
北岸　佑吉　　吉川　英史
木下　順二　　木村　俊夫
桐山　宗吉　　国崎望久太郎
久保　文武　　倉林　正次
栗林　貞一　　郡司　正勝
香西　　精　　小島　吉雄
小西　甚一　　後藤　　淑
五来　　重　　権藤　芳一
金春　晃実　　斎藤　清二郎
佐藤　鉄弥　　阪倉　篤義
三条西　公正　　柴田　　実
菅　　泰男　　関山　和夫
千　　宗興　　千　　宗守
高崎　正秀　　高取　正男
高橋　碵一　　竹田　聽洲
多田　道太郎　　多田　侑史
龍村　　謙　　田中　重太郎
田中　義広　　田中　緑紅
田辺　尚雄　　高村　正一
辻　　久一　　土橋　　寛
辻部　政太郎　　角田　一郎
手鳥　千俊　　堂本　正樹
戸部　銀作　　外村　久江
中井　宗太郎　　中川　善教
中村　太郎　　中村　昌生
中村　保雄　　中山　玄雄
永島　福太郎　　永積　安明
納屋　嘉治　　奈良本　辰也
西山　松之助　　西角井　正慶
沼　　紳雨　　芳賀　幸四郎
萩原　龍夫　　長谷川　菊洲
蜂屋　宗由　　服部　幸雄
浜村　米蔵　　林　　孝一
林屋　辰三郎　　原田　伴彦
半田　康夫　　久田　宗也
菱田　雅夫　　平山　敏治郎
広末　　保　　藤田　　洋
藤沢　隆之　　本田　安次
松島　栄一　　松本　新八郎
前田　　淑　　前西　芳雄
三品　彰英　　三隅　治雄
南　　博　　宮尾　しげを
宮川　寅雄　　宮本　常一
宮原　兎一　　村井　康彦
宗政　五十緒　　森　　修
森　　暢　　森末　義彰
盛田　嘉徳　　山上　忠麻呂
山根　銀二　　山根　有三
山本　修二　　横山　　正
吉川　観方　　吉田　晃文
吉永　孝雄　　依田　義賢
和歌　森大郎　　渡会　恵介

（敬称略）

□**第一回委員会**　二月二二日

会の代表者に林屋辰三郎氏を選んだのち、創刊号の編集内容について討議され、最終的結論をみた。表紙のデザインなどについての意見の交換もあった。また、事務局員として松本由子氏の追加が承認された。

□**第二回委員会**　三月一三日

次の三件について、検討された。

一　まつり同好会が行なう山伏神楽の京都公演に協力し、共催の形式をとる。

二　例会活動の計画がなされ、五月は別掲の通りとすること。

研究会・見学会の案内は、費用の関係もあって、会員に直接通知できないので、会誌や新聞誌上を利用して、できるだけ徹底をはかること。

三　第二号の会誌の編集内容について意見がかわされた。

例会予告

◇五月例会

五月二五日（土）　六時
立命館大学清心館
未　定　　中村　保雄氏
延年芸能の形成と発展　　植木　行宣氏

◇六月例会

六月二二日（土）　二時
立命館大学清心館
世阿弥の芸術論　　梅原　猛氏

×　　×　　×